

126 弟子たちへの教え(5)



ルカによる福音書 12 : 49~53 (分裂をもたらす)、マタイによる福音書 10 : 34~36

→弟子たちへの教え : ①No. 122 恐れずに証しをせよ、②No. 123 貪欲に注意せよ、③No. 124 心配するな
④No. 125 その日に備えよ

分裂をもたらす (ルカによる福音書 12 : 49~53) →弟子たちへの教え : ⑤誤解されることを恐れるな
49 「わたしが来たのは、地上に火」 (→神の終末的な裁き、罪を清める霊的な精錬等) を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。

→ (リビング・バイブル) わたしは、この地上に火を投げ込むために来ました。ああ、この仕事がもうすでに終わっていたらよかったです。

→火による清めである裁きの後に、真の平和が来る。 裁き → 平和

50 しかし、わたしには受けねばならない (火による) 洗礼 (=バプテスマ→罪人の身代わりとして受ける神の裁きである十字架の死) がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。

→ゲツセマネの園での苦悶の前章 (予兆)

→ルカによる福音書 22 : 39~46 (ゲツセマネの園での苦悶=オリーブ山で祈る)

イエスがそこを出て、いつものようにオリーブ山に行かれると、弟子たちも従った。いつもの場所に来ると、イエスは弟子たちに、「誘惑に陥らないように祈りなさい」と言われた。そして自分は、石を投げて届くほどの所に離れ、ひざまずいてこう祈られた。「父よ、御心なら、この杯 (→火によるバプテスマ) をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」

[すると、天使が天から現れて、イエスを力づけた。イエスは苦しみもだえ、いよいよ (→愈々、弥々：ますます) 切に祈られた。(あまりの苦しみのため) 汗が血の滴るように地面に落ちた。]

イエスが祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに戻って御覧になると、彼らは悲しみの果てに眠り込んでいた。イエスは言われた。「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らぬよう、起きて祈っていなさい。」

→弟子たちは、悲しさのあまり祈りを忘れ、精神的な疲れからか眠ってしまった。

51 あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分裂 (リビング・バイブル：争いと分裂) だ。

52 今から後、一つの家五人いるならば、三人は二人と、二人は三人と対立 (→サタンの王国と神の王国との闘争) して分かれるからである。

→ (リビング・バイブル) 今から後、家庭内に分裂が生じるでしょう。五人家族であれば、三人対二人というように、わたしに賛成するか反対するかで分かれて争うことになります。

火による精錬を通過せずに、平和を期待するのは、非現実的である。

そして、私たちクリスチャンが注意しなければならないことは、信仰という名において、非現実的なことが立派であると錯覚してしまうことである。

53 父は子と、子は父と、母は娘と、娘は母と、しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、対立して分かれる。」→イエスの教えは、革命的であるため、人々を二分する (これは想定済みのことである)。

→しゅうとめ

①姑：夫の母、妻の母は外姑(がいこ)

→「しゅうと」、「しゅうとめ」とも読みます。

②舅：夫の父、妻の父は外舅(がいきゅう)

→白(うす：久しい、年長の) + 舅

※岳父(がくふ)：義理の父。しゅうと。=外舅

⇔岳母(がくぼ)：義理の母親

姑
舅

【参考】新約聖書にある「しゅうと」

タイトル(書名)	章:節 聖句	〔検索対象総数 : 6 / 聖句等の総数 33250 (しゅうとめ)7個〕 聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : しゅうとめ]
S マタイによる福音書	8:14 イエスはペトロの家に行き、そのしゅうとめが熱を出して寝込んでいるのを御覧になった。	
S マタイによる福音書	8:15 イエスはその手に触れられると、熱は去り、しゅうとめは起き上がってイエスをもてなした。	
S マタイによる福音書	10:35 わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、／娘を母に、／嫁をしゅうとめに。	
S マルコによる福音書	1:30 シモンのしゅうとめが熱を出して寝ていたので、人々は早速、彼女のことをイエスに話した。	
S ルカによる福音書	4:38 イエスは会堂を立ち去り、シモンの家にお入りになった。シモンのしゅうとめが高い熱に苦しんでいたため、人々は彼女のことをイエスに頼んだ。	
S ルカによる福音書	12:53 父は子と、子は父と、／母は娘と、娘は母と、／しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、／対立して分かれる。」	

【参考】旧約聖書にある「しゅうとめ」

タイトル(書名)	章:節 聖句	〔検索対象総数 : 10 / 聖句等の総数 33250 (しゅうとめ)11個〕 聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : しゅうとめ]
K ルツ記	1:14 二人はまた声をあげて泣いた。オルパはやがて、しゅうとめに別れの口づけをしたが、ルツはすがりついて離れなかった。	
K ルツ記	2:11 ボアズは答えた。「主人が亡くなった後も、しゅうとめに尽くしたこと、両親と生まれ故郷を捨てて、全く見も知らぬ国に来たことなど、何もかも伝え聞いていました。	
K ルツ記	2:18 それを背負って町に帰ると、しゅうとめは嫁が拾い集めてきたものに目をみはった。ルツは飽き足りて残した食べ物も差し出した。	
K ルツ記	2:19 しゅうとめがルツに、「今日は一体どこで落ち穂を拾い集めたのですか。どこで働いてきたのですか。あなたに目をかけてくださった方に祝福がありますように」と言うと、ルツは、誰のところで働いたかをしゅうとめに報告して言った。「今日働かせてくださった方は名をボアズと言っておられました。」	
K ルツ記	2:23 ルツはしゅうとめと一緒に暮らしていたが、	
K ルツ記	3:1 しゅうとめのナオミが言った。「わたしの娘よ、わたしはあなたが幸せになる落ち着き先を探してきました。	
K ルツ記	3:6 麦打ち場の下って行き、しゅうとめに命じられたとおりにした。	
K ルツ記	3:16 ルツがしゅうとめのところへ帰ると、ナオミは、「娘よ、どうでしたか」と尋ねた。ルツはボアズがしてくれたことをもれなく伝えてから、	
K ルツ記	3:17 「この六杯の大麦は、あなたのしゅうとめのところへ手ぶらで帰すわけにはいかないとおっしゃって、あの方がくださったのです」と言うと、	
K ミカ書	7:6 息子は父を侮り／娘は母に、嫁はしゅうとめに立ち向かう。人の敵はその家の者だ。	

【参考】ねらし(精錬) →ペトロの手紙 I 1 : 7、ヨハネの黙示録 1 : 15、3 : 18

製炭において、窯の中で炭化が進み、終わりになると、煙の色が青く変わってきます。その時、窯の正面の穴を少しずつ広げて、徐々に空気を送り込み、炭自体を燃やしていきます。これは、炭化度を上げるため、そして炭に含まれる不純物を燃やし切るための作業です。これを「ねらし(精錬)」といいます。